

## 東熊会会員による「里帰り講話」概要

日時 平成30年2月6日(火) 14:55~15:40  
場所 合志市立西合志東小学校  
対象 同校児童、教職員等  
講師 有限会社海老沢宏環境工房 取締役 海老沢小百合 氏  
参加者 201人(6年児童191人、教職員等10人)  
テーマ 自分発見! ~未来社会の中の自分:将来の仕事~



### 【講話概要】

- 「自分を発見」新たな自分を知っていくことが大切である。そのためには、好きなこと、興味があること、夢中になれるものには集中できる。集中できると観察力が向上し、なぜだろう?どうして?と考えるようになり、自分の新しい扉が開かれる。私はそのことを経て、「見えないものを形にする、創作という仕事」を発見することができた。強い希望を持つことで、夢は必ず実現できる。
- 私の「最初の扉」は、小学生のときだった。秋祭りに興味をもっていたら、学校の先生が「絵に表わしてみたら、その楽しさが伝わるよ。」と言われ、放課後に一人で絵に表わして頑張った。ある日学校に行くと自分の絵を先生が教室に掲示され、うれしく思い、やりきったという満足感が得られた。絵に表わすことで人に伝えられ、喜ばれることがわかった。その後も興味のあることを探して、次の扉を開いていった。やはり、観察して夢中になることが大切だったと思う。
- 【イラストレーター】絵に表わすことができるとわかった私は、様々なものに表わす仕事の扉を開いた。服のデザイン・カーテン・CDのジャケット・傘・病院の患者へのリーフレット・美術館の子ども向け案内図・外国語のガイドブック・デパートのギフト用箱パッケージ・あまんきみこ先生の絵本挿絵・ダンボールを用いてのデザインなど様々なもののデザインをした。自分がデザインしたものが全国で販売されたり、人が喜んでくれたりして、やりがいを感じた。何にでも挑戦し、好奇心をもつことも大切である。
- 【建築設計デザイン】形に残すための設計の扉を開いた。東日本大震災で被災した仙台のデパートの3,4階を取り壊し、1,2階を残す減築設計をした。今は、多くのお客さんが来店し、おしゃれな商業施設となり笑顔が溢れていてうれしく思った。他にも温泉施設・老人介護施設中国の温泉施設などデザインした。どの仕事に携わるときも、しっかりと調査・観察して設計した。小学生のときに学んだことが活かされている。
- 【エッセイスト】人の思いを文字で表現する扉を開いた。きっかけは読者からイラストに添えてある短い文を本にしてほしいと言われたことである。私はイラストの説明を書いていただけだったが、文字でも思いを伝えられることに気づいた。宮沢賢治が花巻農業高等学校の教師をしていた際、私の祖父の本を勉強のために持っていたそうで、宮沢賢治学会の方が探していたとのことだった。祖父は農業の研究に力を尽くし、様々な苗の開発をしていたそうだ。そこで、祖父のことを本にまとめる出版した。宮沢賢治記念館にも置いてあり研究資料になっている。

○私は3つの仕事をしている。みなさんも夢中になって楽しい時間を過ごすことが、観察する芽を育て、アイデアをプレゼントしてくれる。つらいことがあっても、乗り越える力もくれる。もし、好きなことができたなら、その気持ちを大切に、自信をもってがんばってほしい。すると次の扉が開かれ、将来の夢、なりたい仕事につながる。

○夢に向かって、もし弱気になったら呪文の言葉がある。それは「希望のハンドル」という言葉。誰もがそれぞれの夢の実現に向かって「希望のハンドル」を持っている。時にはつらいことがある。つらいときは一休み、危ないと思ったら立ち止まる、間違っていたらまわり道を。私は今思うとまわり道ばかりであったと思う。でもそれがよかったと思うことが多い。壁にぶつかったら、よく考えてほしい。解決できる道や方法は必ずある。夢や希望に向かって自分の希望のハンドルを離さないでほしい。